

受難日礼拝



2010年4月2日午後7時

日本キリスト教団 大阪福島教会

《はじめに》

黙 禱

開会の祈り

《神の語りかけを聞く》

聖 書 創世記 22：1～18

詩 編 22 編

聖 書 ヘブライ人への手紙 5：7～10

賛 美 297 「栄えの主イエスの」

受難記事の朗読～イエスと共に十字架への道を歩む

聖書 マルコによる福音書 14：51～72

賛美 445 「ゆるしてください、われらの罪」

聖書 マルコによる福音書 15：1～20

賛美 304 「茨の冠を」

聖書 マルコによる福音書 15：21～32

賛美 295 「見よ、十字架を」(1～3 節)

聖書 マルコによる福音書 15：33～47

賛美 295 「見よ、十字架を」(4～6 節)

《とりなしの祈り》

応答 84 「聖なる神よ」

《結び》

結びの祈り

沈黙のうちに退出

《はじめに》

沈黙

※礼拝堂では、沈黙のうちに黙想してください。

開会の祈り

司式者 永遠の神、

み子、イエス・キリストは
十字架の上に高く上げられ、
世界をご自分のもとに引き寄せられました。
私たちは、イエスの死を
栄光あるものとたたえます。
私たちがイエスに倣い、
自分の十字架を負って従う者としてください。
私たちのあがない、キリスト・イエスによって。

一同 アーメン。

《神の語りかけを聞く》

ヘブライ語聖書 創世記 22：1～18

1 神はアブラハムを試された。神が、「アブラハムよ」と呼びかけ、彼が、「はい」と答えると、2 神は命じられた。

「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」

3 次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、献げ物に用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられた所に向かって行った。

4 三日目になって、アブラハムが目を凝らすと、遠くにその場所が見えたので、5 アブラハムは若者に言った。

「お前たちは、ろばと一緒にここで待っていなさい。わたしと息子はあそこへ行って、礼拝をして、また戻ってくる。」

6 アブラハムは、焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った。

7 イサクは父アブラハムに、「わたしのお父さん」と呼びかけた。彼が、「ここにいる。わたしの子よ」と答えると、イサクは言った。

「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか。」

8 アブラハムは答えた。

「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」二人は一緒に歩いて行った。

9 神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。10そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。11 そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、12 御使いは言った。

「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」

13 アブラハムは目を凝らして見回した。すると、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。アブラハムは行ってその雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす献げ物としてささげた。

14 アブラハムはその場所をヤーウェ・イルエ(主は備えてくださる)と名付けた。そこで、人々は今日でも「主の山に、備えあり(イエラエ)」と言っている。

15 主の御使いは、再び天からアブラハムに呼びかけた。16 御使いは言った。

「わたしは自らにかけて誓う、と主は言われる。あなたがこの事を行い、自分の独り子である息子すら惜しまなかったので、17 あなたを豊かに祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。あなたの子孫は敵の城門を勝ち取る。18 地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

詩編交読 22 (23-25 頁)

使徒書 ヘブライ人への手紙 5：7～10

7 キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。8 キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。9 そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、10 神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。

賛美 297 「栄えの主イエスの」

受難記事の朗読～イエスと共に十字架への道を歩む

聖書 マルコによる福音書 14：51～72

51 一人の若者が、素肌に亜麻布をまとってイエスについて来ていた。人々が捕らえようとする、52 亜麻布を捨てて裸で逃げてしまった。

53 人々は、イエスを大祭司のところへ連れて行った。祭司長、長老、律法学者たちが皆、集まって来た。54 ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで入って、下役たちと一緒に座って、火にあたっていた。55 祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが、得られなかった。56 多くの者がイエスに不利な偽証をしたが、

その証言は食い違っていたからである。57すると、数人の者が立ち上がって、イエスに不利な偽証をした。58「この男が、『わたしは人間の手で造ったこの神殿を打ち倒し、三日あれば、手で造らない別の神殿を建ててみせる』と言うのを、わたしたちは聞きました。」59しかし、この場合も、彼らの証言は食い違った。60そこで、大祭司は立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」61しかし、イエスは黙り続け何もお答えにならなかった。そこで、重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。62 イエスは言われた。「そうです。

あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、
天の雲に囲まれて来るのを見る。」

63 大祭司は、衣を引き裂きながら言った。「これでもまだ証人が必要だろうか。64 諸君は冒瀆の言葉を聞いた。どう考えるか。」一同は、死刑にすべきだと決議した。65 それから、ある者はイエスに唾を吐きかけ、目隠しをしてこぶしで殴りつけ、「言い当ててみろ」と言い始めた。また、下役たちは、イエスを平手で打った。

66 ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、67 ペトロが火にあたっているのを目にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」68 しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何のことを言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出て行くと、鶏が鳴いた。69 女中

はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いました。70 ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」71すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。72するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。

賛美 445 「ゆるしてください、われらの罪」

聖書 マルコによる福音書 15：1～20

1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。2 ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と答えられた。3 そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。4 ピラトが再び尋問した。「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」5 しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかったのもので、ピラトは不思議に思った。

6 ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願い出る囚人を一人釈放していた。7 さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。8 群衆が押

しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。9
そこで、ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。10 祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。11 祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。12 そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。13 群衆はまた叫んだ。「十字架につける。」14 ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというのか。」群衆はますます激しく、「十字架につける」と叫び立てた。15 ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

16 兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。17 そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、18 「ユダヤ人の王、万歳」と言って敬礼し始めた。19 また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拝んだりした。20 このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

賛美 304 「茨の冠を」

聖書 マルコによる福音書 15：21～32

21 そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちは

イエスの十字架を無理に担がせた。22そして、イエスをゴルゴタという所—その意味は「されこうべの場所」—に連れて行った。23 没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。24 それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、

その服を分け合った、

だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。

25 イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。26 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。27 また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。† 29 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、30 十字架から降りて自分を救ってみろ。」31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。32 メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

賛美 295 「見よ、十字架を」(1～3節)

聖書 マルコによる福音書 15：33～47

33 昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。34 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしを

お見捨てになったのですか」という意味である。35 そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。36 ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。37 しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。

(しばらく沈黙のうちに祈る)

38 すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。39 百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。40 また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。41 この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従って来て世話をしていた人々である。なおそのほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た婦人たちが大勢いた。

42 既に夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、43 アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。この人も神の国を待ち望んでいたのである。44 ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、既に死んだかどうか

を尋ねた。45 そして、百人隊長に確かめたうえ、遺体をヨセフに下げ渡した。46 ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘って作った墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。47 マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

賛美 295 「見よ、十字架を」(4～6節)

《とりなしの祈り》

応答：「聖なる神よ」（『讚美歌21』84）

祈り1 イエスよ、あなたは、偽証に基づいて
死刑の判決を受けられて、
正しい裁判が行われない故に
今も不当に苦しめられている人の
友となってくださいました。
どうか、すべての国や地域で裁判が正しく行われ、
弱い者や貧しい者の権利が守られますように。

祈り2 イエスよ、あなたは、
友として信頼していたペトロに、
「そんな人は知らない」と言って否定されて、
温かい交わりから隔てられ、

孤独を感じ、絶望している人の
友となってくださいました。
どうか、あたたかなふれあいが
私たちの生活を満たし、
私たちも信頼と援助の手を
さしのべることができますように。

祈り 3 イエスよ、あなたは、裏切られ、売り渡されて、
裏切られて心と体に痛手を負う者、
裏切ってしまったために、
自分に絶望する者の友となってくださいました。
どうか、私たちが互いを赦し合い、
堅い信頼の上に
人間関係を築いていくことができますように。

祈り 4 イエスよ、あなたは、ピラトの前で沈黙して、
権力を持たない人々の友となってくださいました。
どうか、権力を委ねられている者が、
最も小さい者の声なき叫びに耳を傾け、
委ねられている責任を
十分に果たすことができますように。

祈り 5 イエスよ、あなたは、侮辱され、ののしられて、
信頼されない者、
受け入れられない者の友となってくださいました。
どうか、不当に迫害を受けている人々、
ことに宗教上の理由や政治的な信条の故に
苦しい立場におかれている人々が
その良心の自由を認められますように。

祈り 6 イエスよ、あなたは、神からの福音を
のべ伝えたのに、
神の名によって裁かれ、死刑の判決を受けらて、
宗教上の争いに苦しむ人々の
友となってくださいました。
どうか、宗教が裁き合い、非難し合うのではなく、
真理の名の下に赦し合い、
和解することができますように。

祈り 7 イエスよ、あなたは、墓に取められて、
すべての人間が味わわなければならない苦悩を
その身に受けられました。
どうか、復活の希望を持って
眠りについた人々を顧み、

あなたの命に受け入れてくださいますように。

主の祈り

司式者 イエス・キリストは、

すべてを委ねて、神に祈ることを教えられました。

弟子たちに教えられたイエスご自身の言葉で、
私たちの信頼を表し、神への願いを捧げましょう。

一同 天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり

地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。

わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。

アーメン。

(日本聖公会・カトリック教会共同訳)

《結び》

結びの祈り

司式者 わたしたちのために死に至るまで、
それも十字架の死に至るまで従順であられた
イエス・キリストが、
わたしたちを守り、強めてくださいますように。

一同 アーメン。

※沈黙のうちに、礼拝堂を退出してください。

式文作成：©水野隆一 2009